



学校だより



令和7年6月27日
7月号
調布市立第一小学校
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> TEL042(481)7636

読書を癒しに…。

副校長 山崎 清香

6月9日～27日まで読書旬間でした。学校では、図書室に行って読書ビンゴに取り組んだり、読書郵便を書きお薦めの本を教え合ったりする姿がたくさん見られました。

7月は夏休みに入りますが、長い夏休みだからこそ、普段経験できないことをして欲しいです。ただ、毎日普段と違った経験をできる訳ではありません。そんなときにお薦めは、読書です。子どもは体験したことから多くのことを学びます。年齢が小さければ小さいほどその傾向は顕著です。しかし、実際に体験するには限界があります。読書はそれを補ってくれます。行ったことや経験したことがないことを、本はまるで自分が味わっているかのように思わせてくれます。これは、読書の効能の一つでもあります。他にも読解力が高まる、知識が増える、視野が広がる、人の気持ちを想像する力が磨かれるなど、読書は心の栄養とも言えるべき、たくさんの良いことがあります。

では、本が好きな子を育てるためにはどうすれば良いのでしょうか。読書好きな子に「本を読むのが好きな理由は？」と聞いてみると、「面白いから！」と多くの子が答えます。「読書が子どもにとって良いからです。」と答える子は滅多にいません。なぜ面白いのかと言えば、自分にとって面白いと思える本を読んでいるからです。つまり、本を好きになるには、

自分の面白いと思える本をどんどん読めば良いのです。

とは言っても、「うちの子は、まだまだ、自分の好きな本に出会えていないようで…」と言う声が聞こえてきそうです。

本が身近にある環境を作って一緒に読書に親しんでみてはどうでしょうか？

私が両親に感謝していることの一つに常に本が手に届く環境をつくってくれたことがあります。「本を読みなさい。」と言われたことは決してなかったですが、毎月届く「こどものとも」(月間絵本)が楽しみであり、何度も読み返した覚えがあります。そして、自分が親になり、我が子にその本の読み聞かせができたとき、この上なく幸せだったことを覚えています。

親の無理強いとは返ってそのものを嫌いにさせる可能性があります。親がしかけて、好きにさせる方法はあるようです。例えば、休日のルーティンに書店や図書館に行くことを組み込む、親自身が読書を楽しむ姿を見せる…など、一緒に楽しむ方法は、まだありそうです。

食事をするのが当たり前、また歯磨きや入浴が特に好きでなくても生活の一部であるように、読書をする事で癒しを得ることが当たり前になってくれたら嬉しいです。

